

高齢者の地域課題（移動手段）解決のための検討

地域課題 高齢者の移動手段がない。			
当該地区 ☒ 市全体 ☐ 佐屋地区 ☐ 立田地区 ☐ 八開地区 ☐ 佐織地区			
問題点 既存の移動手段では不十分である。			
解決案	左記に必要な支援	アイデア	具体策
個人でできること 1. ネットスーパーや生協を利用する	→ネットスーパー利用講習会を行う	⇒① 各スーパーに声をかけて合同講習会を開催する。 ② 地域にどのようなネットスーパーがあるか周知する機会を作る。 ③ 情報 サロン等でまとめて注文を代行するところがある。	① 4地区ごとに講習会行う。（高齢者が集まりやすい場所で） ② ・ケアマネが集まる場所で周知する。 ・地域交流会で周知する。 ③ 各スーパーに“お試し期間”を作ってもらう。
2. 身体面、認知機能面で介護予防に取り組み、いつまでも自身で移動できる状態を保つ	→介護予防事業の充実	⇒① ・ 情報 現在高齢福祉課においては一般介護予防事業として6つの介護予防教室を開催している。また、保険年金課においても、一体化事業としてフレイル予防のための講座や個別相談を行っている。 ・歩くことに特化した健康教室を開催する。 ・足の筋力を維持するための冊子を作成する。 ② ・市の介護予防教室のPRを行う。 ・広報の介護予防教室の記事について高齢者向けのものはまとめる等、今より高齢者の目に留まりやすくする。	① ・セルフケアできるようフレイルや口腔体操等、既出のリーフレットを動画にし、二次元コードやホームページで見られるようにする。 ・動画の作成には各種専門職（リハビリテーション等）へ協力を求める。 ・のびのびストレッチの動画の周知を行う。 ・NHKのテレビ体操など、既存の媒体のセルフケアに関する社会資源を高齢者に紹介する。番組表などを作り配布する。 ② ・市の介護予防教室について、予定されているものを一覧にする。“〇月号広報に募集掲載予定“など事前情報も含めたものにする。 ・垣見鉄工アリーナのスポーツジムや生涯学習課の講座、ウォーキングコースなども併せて情報が閲覧できると良い。当事者が一覧を作れるとよい。
3. シニアカーの活用	→介護保険等、利用対象者の拡大	⇒① ・シニアカーのリースを行っている事業所を調べ、情報提供する。 ② 試乗会や展示会を開催する。（イベントで行うとよいのではないか）	① ・リースや購入可能な事業所一覧を作る。（三輪自転車、四輪自転車含め） ・★個人の負担が大きいのが課題。補助金制度などが必要。 ② あいさいさん祭り、地域の祭など、イベントで試乗・展示会を行う。

解決案	左記に必要な支援	アイデア	具体策
4. 交友関係を増やす（乗り合い）	→巡回バス活用方法の資料を提供	⇒① ・ 情報 ボランティア団体【巡回バスの促進を図る会】が発足している。 ・市民のロコミを集めてどのバス停がどのお店の最寄りになるかといった情報をお店ごとに作成する。 ・時刻表だけではわからない乗り換えの資料を作る。 ② バスの乗り降りについて見守りサポートのボランティアが作れないか。	① ・ロコミを集めて「乗り換えガイドブック」を作る。 情報 ボランティア団体【巡回バスの促進を図る会】は個人のルートを考えて乗り換え表を作る活動をしている。 ★作られた「乗り換えガイドブック」は市の巡回バスダイヤに参考にしてもらえるとより利便性が上がる。 ② 見守りと歩行器の上げ下ろしまで手伝えるボランティアを作る。
5. 運転免許証返納後の移動手段を早くから考える	→包括が共に考えることを広報で周知する	⇒① 免許返納について考える当事者の集まりを作る。 ② 免許返納で困ることをメニューにして解決法を一覧にする。	① 地域交流会や2層などの協議体で考えていただく機会を作る。 ② 「免許返納で困ること」や先述の「乗り換えガイドブック」を市の窓口に置いてもらう。
地域、事業所の取り組みでできること 1. 困っている人への情報提供	→市民への情報発信	⇒① 今ある情報を周知できるよう工夫する。 ② 高齢者ガイドブックの配布を増やす。 情報 佐織協議体では地域の喫茶店に配布した。	① ・紙媒体、インターネット媒体、チラシに二次元コードを掲載する。 ・サロンに情報の周知を依頼、出前講座で情報提供等。 ② ・巡回バスに二次元コードを掲示し、老人福祉センター、地域の病院や銀行等に冊子を置いていただく。 ・★高齢者ガイドブックのホームページ上の掲載位置が見つけにくい（高齢者の１０番目）。もっと上部のわかりやすい位置へ変更するとよい。
2. 移動支援や買い物代行、オンラインショッピング利用支援ができる担い手を増やす	→講座を開く、広報（LINE）での周知、SNS 活用	① 生活支援のボランティアを増やす。	① オンラインショッピングの利用についてもボランティアが利用支援できるとよい。
3. 配達やネットスーパーの利用店舗を増やす		⇒ 情報 とくし丸移動スーパーが佐織北部で稼働している。 情報 はじまる移動スーパーが稼働に向け調整中である。	情報詳細 はじまる移動スーパーはR7.4月から2台の車両で稼働開始。
4. 買い物支援バスの財源の確保	→共同募金のテーマ型募金（1月～3月「高齢者等の移動手段を支援しよう！」）への参加を市民や企業に周知する	⇒① 1月～3月はテーマ型募金の強化期間であるため市民や企業に参加を周知する。	① 他にクラウドファンディングによる資金調達の方法も考えられる。
5. サービス事業所が移動支援に参加できる仕組みづくり	→事業所への声掛け、提案	⇒永和地区の買い物支援バスについてサービス事業所と社会福祉協議会の共同運用に向けて協議中	

公的サービス化、制度化の検討が必要なこと 1. 公的サービスの内容の見直し	→愛西市の移動手段をトータルで話し合える場を作る	⇒① 第3期地域福祉計画のアンケートに移動の項目を入れ、世代ごとの地域の実情を把握する。(現在はニーズや実情の把握も不十分)	① 愛西市の移動手段をトータルで話し合うことができる場を作る。
	→★既存の制度等の改善	⇒シニアカー等の利用支援 ⇒巡回バスの利便性向上 ⇒広報、ホームページ等の情報が今よりも高齢者の目に留まりやすいよう表示方法を改善	